6．決定時期：1999年3月下旬
7．応募書類送付先：
〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1　国立天文台内
日本天文学会　早川基金募集係
＊早川基金内規（天文月報第91巻第10号参照）による援助対象資格は「日本天文学会会員で，原則として35歳以下の天文学研究者であって，この基金以外の海外渡航費（滞在費を除く）の援助を受けない者.」です.

1999年はこの後，6月10日締め切りで1999年7～9月出発分の募集を行う予定です．応募希望者は書類等の準備をしてください.

## 1999年からのPASJ出版の新しい体制について

欧文研究報告編集長　有本 信雄

山形大学における秋季年会でお知らせ致しました通り，1999年1月1日より欧文研究報告（PASJ）は新しい出版体制に移行致します．電子投稿を開始し，電子版を新たに始めます．また，二年間という期限付きで掲載料を半額に致します.

先の総会におきましては，「1999年からエルゼビアサイエンス(株)と出版 および 販売総代理店委託の契約を結ぶ予定である」ことをお諮りし，その承認を戴きました．しかし，その後の契約の交渉過程で天文学会正会員以外の購読者，いわゆる機関購読者の購読料について，同社と天文学会側との間で想定している金額に大きな開きがあることが明らかとなりました．また私どもは価格の決定は学会側と相談の上でなされるべきであると強く主張しましたが，同社の返答は天文学会には決定した価格を通告するが事前に了承を得ることはしない，というものでした．同社の提示講読料は，天文学会側が許容出来る以上の値上げとなり，そのような大幅な値上げを事前に十分な通知もせずに行うことは機関購読者の間に混乱をもたらす心配があります．また，昨今のように購入図書の予算が厳しい折りには，PASJの購読中止を決定する機関が多数発生する恐れもあります．そこで，正副理事長，庶務・会計理事と十分な連絡を取った上で，最終的には編集長の判断でエルゼビアサイエンス社との契約交渉を打ち切ることに致しました．そもそも，電子化の主目的は「より多くの読者に，PASJ論文への，より早いアクセスを可能にする」という点にありました．一時的にせよ，大幅な値上げにより機関購読者数の大幅な減少をもたらすことは，電子化の主目的に反すると判断した次第です．皆様の御理解を戴きたいと思います.

1999年は，(株)ユニバーサル・アカデミー・プレスに紙版・電子版の製作と 販売総代理店を委託することにいたしました．出版と販売を同時に委託するのは，それによって電子化に伴う経費を賄う必要があるからです．電子版の公開が当初の見込みより若干遅れるかもしれませんが，1999年1月開始を目標に現在準備を進めております．電子投稿受付けの開始，掲載料の半額化の方針については先の総会でご報告致しました通り変更はありません．新しい掲載料は1999年1月1日以降に投稿を受付けた論文から適用します．また，1999年の機関購読料（国外23,000円/国内20,000円）ならびに別刷代金（20円/頁）も据え置きます．尚，電子投稿の詳細につきましては後日改めてご案内いたします.

電子版の内容についてですが，いわゆるマルチメディア機能（ビデオ，動画，長大な表，大きなカラー図，ソフトウェア，生データ等）は皆様にご協力いただきましたアンケートで要望があまりありませんでしたので，経費削減の意味を込めて当面採用いたしません．電子版の編集，運用が軌道に乗るには多少の時間がかかると予想されますので，1999年に限り電子版へのアクセスは正会員または購読機関に属する研究者の如何にかかわらず無料公開とします.

天文学会正会員の皆様には，先に海外からのPASJの送付のために，住所の英文表記をお知らせいただき，どうもありがとうございました．お寄せいただきました情報は無駄にすることなく，別の形で活用させていただきたく思います.

最後になりましたが，今後ともPASJへのご支持をお願いしますと共に，ご意見及び論文の投稿をお待ちしております．私どもでは1999年の出版体制が最終的なものであるとは考えておりません．急速に変化する電子出版の国内外の流れに常に対応できるよう，一歩先を考えた編集方針で臨む所存です．以上，何卒ご理解下さいますようお願い申しあげます.

---

## 星空市場

### 天文月報の内容についてお尋ねします.

(1)「ナスカの地上絵とマリアライヘ」(Vol.90, No.12; Vol.91, No.1),「インドの伝統天文学」(Vol.91, No.8, No.9, No.10) は，いずれも興味深い読み物ですが，これらは天文学そのものではなく（年会でも発表の場がない），古天文学，天文学史に属するものです．その方面の学会誌に発表するのが筋ではないでしょうか.

(2) 書評「気象力学」(Vol.91, No.10) も，気象学会誌に載せるべきでしょう．天文学者に役立つ内容といっても，会員の何パーセントがこの本を読むでしょうか．電磁気学，量子力学などにも天文研究に役立つ本は無数にあって，良書を取り上げるとしたらキリがありません．天文学の啓蒙書，教科書はどんどん出るのに，

それを差し置いて周辺領域の本を取り上げる理由は何でしょうか.

ただし (1), (2) とも文章が下らないといっているのではありません. 月報で取り上げるのが適当かどうかという質問です.

なお, 書評の星印は評者の主観が強く, 客観的な評価とは言えないでしょう. Michelin の星印のような権威はありません. お遊びだとすれば蛇足です. トンデモ本などは取り上げるはずもないし, 載るのはおおむね良書ばかりですから.

(東京都　佐藤明達)

## 回　答

「天文月報の編集方針を明らかにしてほしい」, ということに対し現編集長の立場からお答えいたします.

月報は, 天文学会の機関紙であり, 天文学会員および関連学会員の活動報告 (主に天文研究上) ・記録の掲載, 学会員への有益な情報発信, 意見交換の場を提供することを編集部では基本に考えています. この方針を具体化し, 定期的に発行していくために, いくつかの項目 (SKYLIGHT, 天球儀など) を立て, 編集方針が立てやすいよう執筆内容のおおよそのガイドラインを設けています. この項目および内容については, 日本天文学会会員名簿の巻末および天文月報のホームページに記載されていますが, これはあくまでガイドラインであり, 記事掲載では基本に沿う限り柔軟に対処しているつもりです.

月報に掲載される項目記事の大部分 (正確ではないですが, 多分 90 %以上) は編集部からの依頼によるものです. 依頼原稿の場合は, 多少の内容修正はありますが, 原則として全て掲載しています. 依頼の場合, どうしても編集委員の交流関係に偏ってしまうきらいはありますが (保険外交員の勧誘に似ているところがあるかもしれません), 記事内容を予想・理解する上ではやむを得ないと思っています. 編集委員の任期は 2 年 (通常, 継続して 4 年) ですので, 委員の交代でこの辺の不備は補えると思います. 残りは, 推薦, 或いは, 自主投稿記事です. 自主投稿の場合でも予め掲載可否の問い合わせがあるのが普通です. これらの場合, 当然のことながら, 内容が月報掲載にふさわしくなければお断りしますし, 改善の余地があれば修正交渉をいたします.

さて, 掲載にふさわしいかどうかの判断ですが, ① まとまった内容で理解できる記事であること, 且つ, ② 学会員および周辺の読者にとって有益な情報が多少なりとも含まれていること, です. 後段の判断は多分に主観に依存するところです. 従って, 編集委員 (最終判断は編集長) が代われば採用・不採用, 或いは要修正の判断が異なると思いますが, 余程ひどい内容でない限り上記 2 点に合致していれば掲載に向けて努力すると思います (私の場合はそうです). ページ数を維持する義務は無いと思いますが, 頂いた原稿は貴重ですし, 学会員の情報発信の門を狭くする必要はないでしょう. 掲載記事全部に読者全員が興味を持ち理解できるというのは不可能ですし, 中にはわずかの読者しか興味を示さない記事があってもページ数に余裕がある限りかまわないと思っています. このような予測は必要ですが, 正確に行うことは実際上不可能でしょう. 判断に迷うものは, 記事としての体裁が整っているものであればボツにするよりも掲載して読者の評価にゆだねる方が, はるかに有益だと考えます.

なお, ご指摘の 3 つの記事の中では「インドの伝統天文学」のみが依頼原稿です. 古天文学, 天文学史が年会でも発表の場が無いというのは誤った認識です. 確かに研究者の数は少ないと思いますが, IAU でも一分野として認められています.

書評「気象力学」については, 流体力学という現代天文学に密接に関係していることはもちろんですが, 一般に購入できる本ではないという点, 出版にいたる経緯を重視しました.

書評の評価星数についてですが, 確かにご指摘のとおり主観的なものです. しかし, 書評本の実情は, 学会への寄贈図書がほとんどです. これを編集部から評者をさがして依頼するわけで, 必ずしも評者が良書として選んだものではありません. この点, 星数は一評者の主観であっても, 重要な情報を含んでいると考えます. 逆に, 書評本選択はこのように受動的なもので書評しやすい本が評者に選ばれる傾向もあり, 必ずしも推薦図書ではないことが問題かもしれません. この問題点は認識しており, 編集委員会でも議論に上りますが, 図書購入の予算措置や評者依頼システムの確立が難しいことなどで, なかなか改善できないのが実情です. 編集部としては, せめて, せっかくの寄贈図書が死蔵されないよう努力している次第です.

(天文月報編集長　末松芳法)

編集委員　末松芳法 (編集長), 上野宗孝, 大橋正健, 小谷太郎, 辻本拓司, 野口邦男, 平野尚美, 宮坂正大
平成 11 年 1 月 20 日　発行人　〒 181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1　国立天文台内　社団法人　日本天文学会
印刷発行　印刷所　〒 162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 565-12　啓文堂　松本印刷
定価 700 円 (本体 667 円)　発行所　〒 181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1　国立天文台内　社団法人　日本天文学会
TEL: 0422-31-1359 (事務室) ／ 0422-31-5488 (月報・欧文編集)　FAX: 0422-31-5487　振替口座　00160-1-13595
日本天文学会のホームページ　http://www.tenmon.or.jp　月報編集　e-mail: gpjimu@tenmon.or.jp